

第11回 日本読書療法学会勉強会

「矯正教育と読書療法」

日本読書療法学会会長 寺田 真理子

2013年9月29日(日) 14:00 ~ 16:00

日本読書療法学会

The Japanese Bibliotherapy Association
La Asociación Japonesa de Biblioterapéutica



勉強会の背景とテーマ

日本における読書療法・・・非行少年への矯正教育

うつ病と非行 / 犯罪・・・攻撃性のベクトル

犯罪心理学・・・自分だったら？

人間の可塑性 ← その判断材料は？

本日の内容

矯正教育とは
少年犯罪と処遇について
矯正教育の内容
矯正教育における発達障害の視点
日本における読書療法の歴史
矯正教育における読書療法の現在
人間の可塑性
Q&A

矯正教育とは

犯罪や非行のような社会的不適応を示す者を矯正し、社会の一員として復帰させる教育。

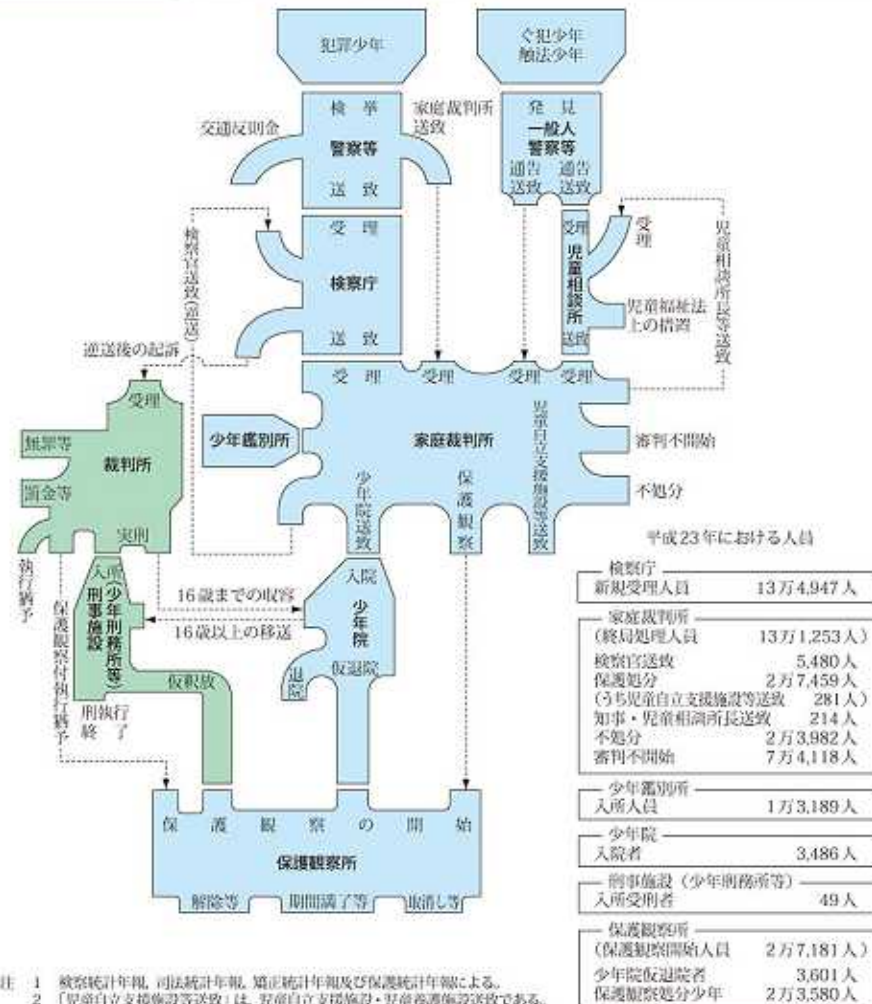
(大辞林 第三版)

広義には、刑務所等の矯正施設において、犯罪者に対してなされる教育を指すが、狭義には、少年院において非行少年に対して行われる教育をいう。資本主義の発展とともに犯罪が増加して、犯罪対策の必要性が高まり、とりわけ可塑性に富む青少年に対しては、成人犯罪者から分離して処遇することが為政者の課題となった。日本では、その試みは1870年代から80年代にかけて懲治制度として始められたが、それは教育の名に値するものではなく、1884年池上雪枝が大阪に感化院を創設したのにつづいて民間感化事業家たちによる私立感化院設立運動がおこり、政府もようやく1900年に感化法を公布した。

(世界大百科事典 第2版)

少年犯罪と処遇について

3-2-1-1 図 非行少年に対する手続の流れ



ぐ犯少年: 次の ~ に掲げた自由があって、性格または環境に照らして、将来、犯罪少年、または触法少年になる恐れのある少年。

保護者の正当な監督に服さない性癖(性質の偏りなど)がある。

正当の理由がなく家庭に寄り付かない

犯罪性のある者、不道徳な者と交際し、またはいかがわしい場所に出入りする。

自分や他人の徳性(道徳心、道義心)を害する行為をする性癖がある

触法少年: 十四歳未満で刑罰法令に触れる行為をした少年

犯罪少年: 罪を犯した十四歳以上二十歳未満の少年

保護観察処分が大半

法務省ホームページ

『実録！ 少年院・少年刑務所』より

少年犯罪と処遇について



天使のナイフ

(講談社文庫)

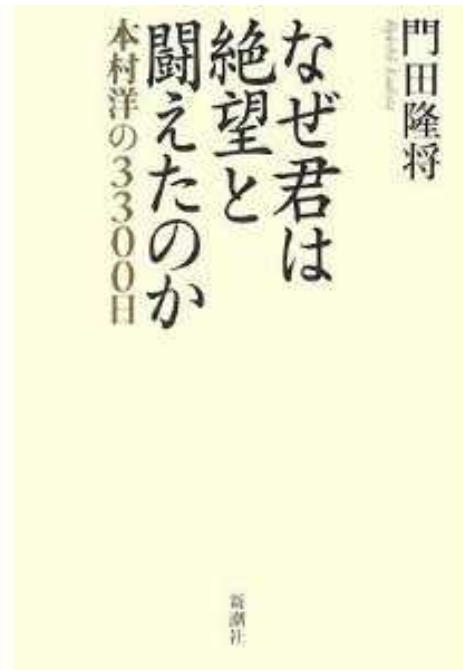
少年法の精神によれば、子供は粘土細工と同じものらしい。子供の犯罪は、未熟なゆえに環境に作用されて起こるものだ。だから犯罪を犯した子供は、それを処罰するのではなく、立ち直りのために教育的な働きかけを行って、指導するという理念で成り立っている。可塑性に富んだ子供は、多くの手助けがあれば立ち直っていくという考えだ。

罪を犯した子供たちが立ち直っていくことは必要なことだとは思いますが、その理念は、犯罪に遭った被害者やその家族の慟哭を踏みつけた上で成り立っているのだ。

罪を犯した子供たちは、過剰な人権意識によって手厚く守られる。では、殺された祥子には人権はないのだろうか。

まだ十五歳だからという理由だけで人殺しは守られた。世間に名前が出ることもなく、少しの間だけ少年院に入って、すぐに社会に戻ってくる。それでもう罰は終わったとばかりに、自分の犯した罪や、自分が不幸にした人たちの苦しみなんか忘れて平然と暮らしてる。

少年犯罪と処遇について



なぜ君は絶望と戦えたのか
(新潮社)

2013/9/29

捕まった犯人が少年だったというだけで、名前も絶対に秘密で、迂闊に名前を出すと、最悪のケースでは、犯人から名誉毀損で訴えられる危険性もあった。マスコミは思考停止したかのように、犯人だけの人権を守り始めた。Fの名前も顔も一切出ることにはなかった。どこの誰がこれほどひどい犯罪を行ったのか、世の中の誰も知ることができなかったのである。

一方、本村本人の会社や住所、名前、殺された妻と子の名前は、何の了承もなくすべて公表され、マスコミは家族の写真を求めて、会社の同僚や友人宅まで押し付けてきた。

Fは少年法によって二重三重に守られ、ほとんどの情報を遺族である自分さえ知ることができなかった。犯人が果たして罪を認めているのか、反省しているのか、謝罪の意思はあるのか、なぜ犯行に及んだのか、どういう家庭環境に育ったのか。そんなことも少年法の壁によって封じられていたのである。

また、Fには、逮捕後すぐに国選弁護人が駆けつけ、法的、精神的なアドバイスを行い、Fの人権を守るためと称して警察やマスコミを監視したり警告を発したりしていたが、本村には、法的なアドバイスや精神的ケアをする人は誰もいなかった。

少年犯罪と処遇について

「司法に絶望しました。
控訴、上告は望みません。
早く被告を社会に出して、
私の手の届くところにおいてほしい。
私がこの手で殺します」

『なぜ君は絶望と闘えたのか』より

少年犯罪と処遇について

少年法等の一部を改正する法律の概要(2001年4月施行)

第1 少年事件の処分等の在り方の見直し

1 少年法における年齢区分の見直し

- (1) 刑事処分可能年齢を16歳から14歳に引き下げる(第20条第1項)。
- (2) 懲役又は禁錮の言渡しを受けた少年は,16歳に達するまで,少年院に収容することができるものとする(第56条第3項)。

2 凶悪重大犯罪を犯した少年に対する処分の在り方の見直し

- (1) 犯行時16歳以上の少年が故意の犯罪行為により被害者を死亡させた罪の事件については,保護処分を適当と認める場合を除き,検察官送致決定をするものとする(第20条第2項)。
- (2) 少年法第51条により死刑を軽減して無期徒刑を科した場合においては,第58条第1号の少年に対する仮出獄可能期間の特則(7年)は適用しないものとする(第58条第2項)。
- (3) 18歳未満の少年に対し無期徒刑で処断すべきときは,現行法上必ず有期徒刑に軽減することとしているが,無期徒刑を科すか有期徒刑を科すか,裁判所が選択できるものとする(第51条第2項)。

3 保護者の責任の明確化

家庭裁判所は,必要があると認めるときは,保護者に対し,訓戒,指導その他の適当な措置をとることができるものとする(第25条の2)。

4 審判の方式

審判は,懇切を旨として,和やかに行うとともに,非行のある少年に内省を促すものとしなければならないものとする(第22条第1項)。

2013/9/29

日本読書療法学会
<http://www.bibliotherapy.jp/>

法務省ホームページより 9

少年犯罪と処遇について

第2 少年審判の事実認定手続の適正化

1 裁定合議制度

家庭裁判所における少年審判等に、裁定合議制度を導入する(裁判所法第31条の4第2項)。

2 検察官及び弁護士である付添人が関与した審理の導入

- (1) 家庭裁判所は、故意の犯罪行為により被害者を死亡させた罪及び短期2年以上の懲役又は禁錮に当たる罪の事件の事実認定の手続に、検察官が関与する必要があるときは、検察官関与決定をすることができるものとする(第22条の2第1項)。
- (2) 家庭裁判所は、検察官関与決定があった場合において、少年に弁護士である付添人がないときは、弁護士である国選付添人を付するものとする(第22条の3第1項)。

3 抗告受理申立制度

検察官が関与した事件の審判の決定に重大な事実誤認等がある場合には、検察官の申立てにより、高等裁判所が抗告を受理することができる制度を設けるものとする(第32条の4)。

4 観護措置期間の延長

観護措置は、8週間まで延長することを可能とする(第17条第4項)。

5 保護処分終了後における救済手続の整備

保護処分終了後、非行事実のなかったことを認め得る明らかな資料を新たに発見した場合の保護処分取消しの手続を整備する(第27条の2第2項)

少年犯罪と処遇について

第3 被害者への配慮の充実

1 被害者等の申出による意見の聴取

家庭裁判所は、被害者等から事件に関する意見の陳述の申出があるときは、これを聴取するものとする。ただし、相当でないと認めるときは、この限りでないものとする(第9条の2)。

2 被害者通知制度

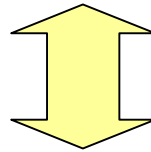
家庭裁判所から、被害者等に対し、少年審判の結果等を通知する制度を導入する(第31条の2第1項)。

3 被害者等による記録の閲覧・謄写

被害者等に対し、審判中及び審判確定後、一定の範囲で非行事実に係る記録の閲覧又は謄写を可能とする(第5条の2第1項)。

少年犯罪と処遇について

遺族側の処罰感情



少年の更生への信頼

家庭裁判所の調査官が、「被害者が加害者を許すことがよいことで、それを目標とするべき」だとずっと考え、思い込んできた、とぼくに語ってくれたことがある。

そんな彼らにとっては、はげしく憤り、絶対に加害者を許さないと叫ぶ被害者遺族は、「かたくなである」というふうに見てしまうのだという。そして彼らが、言葉少なになると、「成長した。冷静になった」と見るんだそうだ。

それが職業とはいえ、なんて一方的な見方なんだろうとぼくは思った。

家裁の調査官も保護司も一様に、少年法の改正により、被害者の意見も聴取をしなければならないように法律運用が変わってからはじめて、自分たちがそんなふう思い込んできたことにきがついたという。

(『「悪いこと」したら、どうなるの?』より)

cf. スーパーフリー事件裁判傍聴時の弁護士

少年犯罪と処遇について

初等少年院：心身に著しい故障のない、おおむね十二歳以上おおむね十六歳未満の者を収容。

中等少年院：心身に著しい故障のない、おおむね十六歳以上二十歳未満の者を収容。

特別少年院：心身に著しい故障はないが犯罪傾向の進んだ、おおむね十六歳以上二十三歳未満の者を収容。また特別に、刑事裁判で懲役や禁固を言い渡された十六歳未満の者のうち、少年院での矯正教育が有効と認められた者を収容。

医療少年院：心身に著しい故障のある、おおむね十二歳以上二十六歳未満の者を収容。

『「悪いこと」したら、どうなるの?』(イースト・プレス)より

少年犯罪と処遇について

少年院の処遇課程、つまり収容期間は以下のとおりに定められている。

特修短期処遇：四ヶ月以内での仮退院を目指すもの。早期改善の可能性が大きく、開放処遇、つまり社会から大きく切り離さない、たとえば塀がない施設に収容することなどに適する少年が対象となる。

一般短期処遇：六ヶ月以内程度での仮退院を目指すもの。早期改善の可能性が大きい少年が対象。

長期処遇：短期処遇になじまない少年が対象。収容期間は原則として二年以内。

3-2-4-8 表 少年院入院者の人員（少年院の種類別・処遇区分別）

（平成23年）

処 遇 区 分	総 数	初 等	中 等	特 別	医 療
総 数	3,486 (100.0)	695 (19.9)	2,654 (76.1)	60 (1.7)	77 (2.2)
一般短期処遇	911 (26.1)	210	701
特修短期処遇	44 (1.3)	11	33
長 期 処 遇	2,531 (72.6)	474	1,920	60	77

注 1 矯正統計年報による。
2 () 内は、少年院の種類別又は処遇区分別の構成比である。

矯正教育の内容

矯正教育について

少年院における処遇の中核となるのは矯正教育であり、在院者には、生活指導、職業補導、教科教育、保健・体育及び特別活動の五つの領域にわたり、指導が行われるとともに、心身の障害が原因で社会生活に適応できない者には、医療を行う。また、少年院における処遇期間は、新入時教育、中間期教育及び出院準備教育の三期に区分されているが、少年院の長は、個々の在院者ごとに、それぞれの期に応じた矯正教育の目標並びにその基本的な内容及び方法を定める個別的処遇計画を作成し、矯正教育は、これに基づき実施される。

なお、少年院では、在院者の向上意欲を喚起し、自発的な努力により改善進歩の効果を上げさせるために、在院者の処遇段階を設けている(1級、2級及び3級に分けられ、1級及び2級は更に上・下に分けられている)。少年院の在院者は、まず、2級下に編入され、その後、改善進歩に応じて各段階に移行し、これに応じて、生活上の制約が緩和されるなどする。

法務省ホームページ 平成24年版 犯罪白書より

矯正教育の内容

生活指導: 基本的な生活態度の指導、健全なものの見方や考え方や行動の仕方を身につけるための指導

職業指導(補導): 「働く」意欲を呼び起こしたり、仕事に就いたときに必要な知識・技能の習得を目指す指導

教科指導: 中学校 / 高等学校の学科教育をはじめ、社会生活に必要な学力を身につけさせるための指導

保健体育: 入院前の不規則な生活によって弱っている体の健康の回復と、スポーツを通じて体力の向上を図る指導

特別活動: 自主的活動、社会奉仕活動や社会見学、野外活動、レクリエーションなど。

『「悪いこと」したら、どうなるの?』(イースト・プレス)より

矯正教育の内容

個別面接

日記指導

作文指導

読書指導

内省指導(黙想、作文、面接、教材利用)

役割交換書簡指導(ロール・レタリング)

内観指導

ソーシャル・スキルズ・トレーニング(SST)(ロール・プレイング)

モラルジレンマ指導

プロセス学習(運動会、演劇)

薬物乱用防止講座、暴走族離脱講座

家族生活適応講座、交友関係改善講座

被害者の視点を取り入れた教育

(『矯正教育の方法と展開 現場からの実践理論』より)

日本読書療法学会

<http://www.bibliotherapy.jp/>

矯正教育における発達障害の視点

「あいうえお」がきちんと言えず「たみむへほ」になってしまう

左右がわからない

3分の1の意味がわからないから「窓を3分の1開けて」で喧嘩に

まっすぐ歩けずぶつかって騒動になる

顔がモザイクに見えて鼻だけで認識、太ももだけで認識

発達障害の視点を取り入れた宇治方式

具体的な指示

食事改善・・・まごはやさしい

魚の食べ方

「人と付き合っていく上で大切なものは何か」の話し合い

37人いたら1～37までの数字を言っていく

(『心からのごめんなさいへ』『子供たちは甦る! 少年院矯正教育の現場から』より)
2013/9/29

日本読書療法学会

18

<http://www.bibliotherapy.jp/>

矯正教育における発達障害の視点

鑑別所において、面接や生活場面で、発達障害について注意が払われているかというご質問についてお答えします。

入所者に発達障害の診断名がついているか、投薬治療を受けているか(受けていたことがあるか)は、医療上必要な情報ですので、まず必ず家庭裁判所から引き継いでもらいます。そして投薬が必要ならばもちろん薬を与えます。

また、過去に医療機関や福祉施設にかかったことはなくても、特異な動静が見られたという情報があれば、鑑別所入所中に個別に心理検査を実施したり、幼少期の情報を集めたりして、精神科医の診察にかけます。
全国一律ではなく、当鑑別所の話ですが。

そして、発達障害、あるいは発達障害の疑いのある少年だということは、少年に接するすべての職員に共有されます。

さらに、特別な配慮が必要ならば配慮しますし、他の少年と同様に扱って差し支えない場合は同様に扱います。配慮、とは例えば、生活場面で落ち着かない様子が見られても、厳しく叱るのではなく適切な振る舞いを指導するにとどめるなどです。自閉傾向の強い子は余りしゃべってくれないので面接は弾みませんが、それもまた重要な少年の特性として鑑別結果通知書に記載することになるわけです。そして、鑑別結果はすべからず家庭裁判所に報告され、少年院にも引き継がれます。

日本における読書療法の歴史

大神貞男の実践

高度非行少年、混血児Kの事例

治療的図書：

『家なき少女』

フランス人を父に、インド人を母に持つ少女ペリーヌ。インドからやっとの思いで、フランスにたどりついたとき、すでに父は亡く、母もパリで力尽きてしまう。一人ぼっちになったペリーヌは、父の話をたよりに、母の教えを胸に、父の故郷マロクールにむかう。はたして、祖父はペリーヌをむかえいれてくれるだろうか。ペリーヌの父は、結婚が原因で勘当されていた…。『家なき子』で有名な十九世紀フランスの文学者エクトール・マロの傑作。聡明な少女が困難をのりこえ、幸せを得るまでの物語。

『次郎物語』

次郎は孤独な子だった。生後間もなく里子に出されたため、生家に戻ってからも、母、祖母に疎まれ、兄や弟となじむことができなかった。ひねくれ、反抗的になりがちな次郎を支えてくれるのは父の俊亮だけだった。が、一家は没落。さらに、母の死、父の再婚、中学受験の失敗…と、次郎の周囲には、大きな変化が待ちかまえていた。自伝的要素を交えて一人の少年の生き方を描く。

(『読書療法 その基礎と実際』より)

日本における読書療法の歴史

『真実一路』

父と姉に育てられた義夫少年を主人公に、人生を“真実一路”に生きようとしながら傷ついていく人人の真摯な姿を写し出す不朽の名作。

『破戒』

明治後期、部落出身の教員瀬川丑松は父親から身分を隠せと堅く戒められていたにもかかわらず、同じ宿命を持つ解放運動家、猪子蓮太郎の壮烈な死に心を動かされ、ついに父の戒めを破ってしまう。その結果偽善にみちた社会は丑松を追放し、彼はテキサスをさして旅立つ。激しい正義感をもって社会問題に対処し、目ざめたものの内面的相剋を描いて近代日本文学の頂点をなす傑作である。

『子じか物語』

フロリダの原野で貧しい生活を送る開拓農民バクスター一家の一年を、ジョディと子鹿のふれあいを中心に描いた名作。

『伊豆の踊り子』

旧制高校生である主人公が孤独に悩み、伊豆へのひとり旅に出かける。途中、旅芸人の一団と出会い、そのなかの踊子に、心をひかれてゆく。清純無垢な踊子への想いをつのらせ、孤児意識の強い主人公の心がほぐれるさまは、清冽さが漂う美しい青春の一瞬。

(『読書療法 その基礎と実際』より)

矯正教育における読書療法の現在

読書指導:対象者に応じた特定の図書を選定し、読書活動を通して、態度変容、人間形成を図ろうとする指導方法

少年院における読書指導は

非行要因となっている問題性の改善、社会性の付与を目的とし、これに沿って

対象者の問題性に応じてその指導を行うことが特徴である

(『矯正教育の方法と展開』より)

矯正教育における読書療法の現在

少年院における読書指導は以下のように区分できる

少年個々の問題性の改善を図る

A. 個別的処遇計画に基づく読書指導・・・読書感想文＋面接

B. 非行態様別に行う読書指導・・・暴力行為、薬物、暴走行為等

C. しょく罪指導としての読書指導・・・被害者の視点

在院者全般に必要な社会性などを付与する

読書の感想を他の少年に言葉で伝達させることにより表現力、共感性、理解力の伸張を図る目的。情操教育として。

読書感想画、絵本を用いるものも。

更生的風土の醸成を目的とする

朝読書の導入

(『矯正教育の方法と展開』より)

矯正教育における読書療法の現在

『スイミー』

この絵本を個別指導のときに少年と一緒に声を出して読むんです。その後、各場面でスイミーはどのような世界に住んでいるのか、どのような姿かたちをしているのか、まず書かれている事実について確認します。

次にスイミーはどのような気持ちだったのか、ほかの魚の気持ちはどうか、自分は思うかななどを丁寧に聞いていきます。少年たちは”スイミーは黒い魚だから、集団になじまないとヘンな魚でおわってしまう“などというような感想を伝えてきます。そういった感想を受けて、こちらも感想を言います。着眼点がおもしろいと思ったら、具体的な言葉でほめるようにもします。感想を書かせるのではなく口頭で言わせることで、より子どもの理解力を知り、コミュニケーション力を知る手がかりになりました。

(『心からのごめんなさいへ』より)

『スーホの白い馬』

『淳』

人間の可塑性



友罪
(集英社)

十四年前の、子供の頃に起こした事件であろうと、再犯の可能性が極めて低かろうと、正常な精神状態になっていようと、鈴木がふたりの子供を残虐に殺したのは厳然たる事実なのだ。

そこには、他のどんな心情も入り込む余地はない。

指を切断したときに助けてくれたことも、益田に特別な友情を抱いてくれていることも、その事実を前にしては何の意味も持たない。

人間の可塑性



悪党
(角川文庫)

「健太を殺した坂上は逮捕されて、二年間少年院に入っていました。法律的には罪を償って社会に出てきたということになるのでしょう。ただ、私たちにはとうてい納得などできないのです」

「あの男を赦すべきか、赦すべきでないのかが知りたいのです。赦すべきならばその材料を見つけてほしい」

「おまえは姉ちゃんを犯して殺したやつらのどんな姿を見たら赦せると思えるんだ？」

「そいつらが刑務所から出て真面目に生活してれば過去の罪を赦せるのか？ 姉ちゃんの墓の前やお前に向かって泣きながら赦しを請うたらおまえは赦せるのか？」

人間の可塑性

「読書療法家はあたたかいヒューマニストであるとともに、
また人間性の変化の無限の可能性に強い信念の所有者で
なければならない」

大神貞男(『読書療法 その基礎と実際』より)

「一生なやみつづけていいのだ。
なやみをしまいこんでわすれないようにのりなさい」

「悩み続けることに意味がある」

河合隼雄(『縦糸横糸』より)

Q&A

トラウマと読書について

ロールモデル

・・・「妻と娘を殺害された怒りや憎悪を、少年法をはじめ被害者の人権等について考えるエネルギーに変換してくれたのが、この『淳』である」

(本村洋『淳』文庫版解説より)

心理学などでの具体的な知識の取得

・・・フラッシュバックされる映像の変換

ラベリングの懸念

・・・AC

参考書籍一覧

- 『読書療法』(明治図書)
- 『読書療法 その基礎と実際』(文京書院)
- 『矯正教育の方法と展開 現場からの実践理論』(財団法人 矯正協会)
- 『「悪いこと」したら、どうなるの?』(イースト・プレス)
- 『実録! 少年院・少年刑務所』(二見書房)
- 『なぜ君は絶望と闘えたのか 本村洋の3300日』(新潮社)
- 『天使のナイフ』
- 『友罪』(集英社)
- 『悪党』(角川文庫)
- 『心からのごめんなさいへ』(中央法規)
- 『子供たちは甦る! 少年院矯正教育の現場から』(集英社)
- 『スイミー』(好学社)
- 『スーホの白い馬』(福音館書店)
- 『淳』(新潮文庫)
- 『アイシテル~海容(前編、後編)』(講談社)
- 『アイシテル-絆(前編、後編)』(講談社)
- 『縦糸横糸』(新潮文庫)
- 『誰も守ってくれない』(映画:ポニーキャニオン)
- 『藁の盾』(映画:ワーナー・ホーム・ビデオ)
- 『矯正教育研究』26巻44頁-46頁:樋下敦子「交野女子学院における読書療法について」(1982年3月1日出版)
- 『家調協雑誌』13号66頁-68頁:中村敏和氏「家庭内暴力少年の読書療法による指導事例」(1982年12月21日出版)
- 『矯正教育』33巻3号84頁-92頁:斉藤恵氏他「生活指導技法としての読書療法について」(1982年8月1日出版)
- 『矯正教育』32巻3号73頁-77頁:樋下敦子氏他「読書療法における運用の実際」(1981年10月1日出版)

第12回 日本読書療法学会勉強会

テーマ：矯正教育と読書療法
日時、会場は後日ご案内いたします

ご参加ありがとうございました！

